

第276回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

- 1 開催年月日 新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、委員出席での審議会が開催出来ず、在宅での審議となった。
- 2 開催場所 各委員へ、3月7日にメールにて試聴番組の音声データを送付し、各委員は試聴後、その講評を3月14日までに返信した。
- 3 委員の出席 在宅での審議を行った委員数 5人
委員の氏名 小笠原 伸 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
新井 啓泰
高橋 淳

4 審議の概要

2022年1月7日に放送した番組

「宇都宮プライド愉快的ラジオ」について、試聴と意見交換をおこなった。

(番組説明)

宇都宮市の取り組みや、市内で活動・活躍する人々、イベント情報など、多様なまちの魅力・話題を“愉快地”お伝えする宇都宮市の広報番組です。

2022年1月7日の放送は、パーソナリティ黒後(くろすけ)が約2か月間の育児休業明けの初回であり、また年明けということもあり特別編成で放送。

黒後の育児期間に代役を務めていた和気朋子(ワッキー)がくろすけを迎え入れるかたちで番組を進めました。

今回はこの番組をお聴き頂き、ご講評をお願いいたします。

【 審議番組についての意見 】

委員：宇都宮の良さ・楽しさが伝わってくる番組で、コンセプトが良かった。

男性パーソナリティが実際に育児を取り、自身のリアルな体験を自分の言葉で話すというのは、あまり他ではないのでは？

特に夜泣きや夜中の授乳の大変さを感じた時、奥様に「皆そうだから」と言われて気持ちが楽になったというくだり。こういう言葉を自分の事として公共の電波で伝えていくことは、とても意味があると思う。子育てについてはどうしてもママ向けになることが多いが、パパ向けの子育て・育児についてなどの体験談コーナーが増えてくるといい。

宇都宮市民以外の方や、土地勘がない方も聴いていると思うので、市民以外の方にもわかるような紹介があるといいと思った。

和気さんのトークはテンポよく、受け答えも上手。元気で楽しい感じがとても良いのだが、もう少し丁寧な発声も意識したほうが良いかもしれない。テンションが高い場面では、少し聞き

取りにくいこともあった。

BGM が全体的に賑やかな曲が多く、二人の話とほぼ同じレベルで曲が聞こえてきてしまい、曲のほうに耳を取られることが多く、気になった。

委員：和気さんの声のトーンはハスキーでキャラクターが立っていて良い。ただ、テンションを上げすぎないほうが、奥行きのある魅力的な声質に響くのではないかと感じる。
育児の話で、もっと宇都宮を絡めて欲しかった。
二人のテンポ感が上がりすぎて、少し聞きづらい。
クラフトビールの話は以前出てきた話題だとしても、もっと丁寧に振り返って欲しかった。
ろまんちっく村の山下さんの話し方がとても良い。落ち着いていて、明るい。
和気さんは、クロスケさんの子育ての悩みをもう少し重く受け取って欲しかった。
和気さんが番組と向き合えた話は、子育てと関係ないので、つながりが変に感じた。
行政からのメッセージを織り込んだ観光案内は良い。
全体としては、日常感、生活感のある親しみやすい番組で良い。ただ、リラックスした空気も大事にしつつ、初めて聞いた人にもわかる番組運びは意識してほしい。
11年目だからこそ、よりわかりやすく、きめ細やかな気遣いができる番組になってほしい。

委員：オープニングでは、2人の掛け合いがあまりうまく噛み合っていない印象。
和気さんのやや過剰な空騒ぎが耳に付く。お祝いが重なる回なので、多少はしゃぎ気味になるのはやむを得ないとしても、少しやり過ぎている気がした。
男性の「育休」取得者がその体験を復帰直後に生々しく語る、というなかなかレアな状況に恵まれた黒後さんの見せ場であったが、惜しかった。
どれもナルホドな情報には違いないのだが、実体験者としての生々しさが足りなく、口調は大げさな割に内容が乏しかった印象。
「オトコのイクキュー」という今一番熱い話題なのだから、ママ共感の育児アルアルではなくて、男性目線の突っ込んだレポートが期待された。つい最近までやっていた慣れないオトコ育児の違和感や辛さ、仕事場や仲間への気がね、妻への不満など、多少ネガティブでも男性が仕事を休んでやりきった育児体験の生の声は、男女を問わず子育て世代にとって貴重なものだと思う。自身の体験を取材者の立場からしっかり観察してメモしてレポートして欲しかった。もちろん、育児実体験からしか得られないすばらしい瞬間の話もぜひ聞きたい。
番組の締めで「育休は最高の出産祝い」「周りへの感謝」という言葉は、胸に残った。
一視聴者として社会全体でそうした環境を整えていかねばと改めて思えた時間であった。

委員：オープニングでの和気さんの明るい声が心地良かった。
クロスケさんの育休中の話は、興味深い内容ばかりだった。
最初、個人的な事情である育休を番組のメインテーマとすることに疑問を感じたが、実際に聞いてみれば男性の育休事情は知らない世界の話で面白く、これはこれで成り立つのではないかと思った。「子育てにやさしいまち」としてのイメージを打ち出したい市の意向もあったとのことだが、宇都宮市が「やさしいまち」であることを各種データから一言付け加えても良かったのではないだろうか。それを知らないリスナーもいると思う。
商品提供店舗のコーナーでは、ろまんちっく村ブルワリー山下さんの話が面白かった。
街中の歩いて回れる範囲にブルワリーが3軒あるのは全国的に珍しい、というのは新たな発見だった。
「愉快的サムシング」での黄ぶな大明神のレポートは情景描写も良く、足を運んでみたいという気にさせる。愉快的ラジオは今後も肩の凝らない内容で続けてほしい。

委員： 育休取得の男性アナウンサーという意味では地域的に貴重な存在であることがよく伝わった。県域局として社会課題に率先して対応するという姿勢をこういう機会を積極的にきちんと番組で扱うのはよい。

育児の経験や苦労話、パートナーに多くを任せていた状況からの変化がコンパクトに説明されていてわかりやすかった。一方で、育休についての企業、組織としての支援の背景やその状況がわかるともっとよかった。育休取得者が出ることで企業側にも負担が増え、その点ではばかりではなく、地域でどう若い家族を支えてゆくのかを示してゆく必要があったと思う。事例として弁当、宿題の話もよかった。これらの内容を踏まえて宇都宮市役所とのコラボ企画を考えてみても良かったのではないかな。

電話インタビューがあったが、ZOOMなどを番組でのインタビューの標準ツールにしてもいいと思う。

今回は特別編ということだが、2人での進行が聞いていて快適だった。

時間枠としても人口50万の県庁所在地・宇都宮市の魅力を余裕を持って説明するのに1時間番組では正直毎回物足りない。

この番組は宇都宮市民向けだけでなく、栃木県内さらには県外、radikoを通じて全国への宇都宮市の発信の場として考えていくといい。

金曜日は朝から夜までRadioBerryの生放送番組が続けて聴ける中での宇都宮市の情報発信の枠になることを期待したい。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について
委員出席の上、4月11日(月)に審査会を予定しているが、
新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、日程や審議方法を再度検討することとする。

5 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

6 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 3月27日(日)午後 7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

7 その他の参考事項
なし